

教育課程企画特別部会（第11回、平成27年7月8日）
における各班の発表の概要



【3班】（構成員：市川委員、神長委員、品川委員、清水委員）

- ①ターゲットの明確化、②教員養成、③教材、④政策のプライオリティとコミュニケーションという4つの柱を立てた。
- ターゲットの明確化という点については、今まで一体何が問題だったのかを振り返ってみる必要がある、今回の一番の課題はいかに教科連携をして、資質・能力を育てていくかということ。それを踏まえて、アクティブ・ラーニングを導入していくことの合意を作っていくことが指導の効果を上げていく。その際重要なのは、しっかり教科教育を行い、教科教育のベーシックスキルをしっかりと定着させること。その上で、個々の子供たちの発達的な課題や学習スタイルの多様性を踏まえつつ、クラス全員の教育的ニーズを見ながらどういった指導法を取ればより定着するのかということや、アクティブ・ラーニングを行うために必要な自己効力感などを事前に作っていくとか、クラス経営が大事というような意見が出た。
- 教員養成と教員研修については、研修や、学校における体制作りに加え、大学で教員養成をする際の中身をどうするかが議論になった。教員養成段階で、いかにアクティブ・ラーニングを踏まえた、教科縦割りにならないような指導方法を教えられるかが重要である。
- 教材については、教材カリキュラムセンターのようなものを利用し、教材の情報を共有することが重要。実際にそういった教材を使っているときの映像を見せるなど、映像のアーカイブを作る必要があるのではないかという意見が出た。

○ 政策のプライオリティとコミュニケーションという観点も重要。中教審の中でも、教育課程企画特別部会での議論を各教科に落とし込んでいく時に、整合性をつけることが大事。新しい教育課程を推進していくうえでは、これまで以上に国から教育委員会への情報が正確に伝わるのが重要になる。その際、たとえば、新しい教育課程の説明をする時に、動画でのリアルに紹介するのはどうかという意見もあった。さらに、いろんな資質を子供たちに養成していくときに、学校だけで行うのではなくて、その地域が持っているもの、例えば、生涯学習等と連携をしていくということも大事だという議論もあった。

○ 理念を言葉だけで伝えようとしてもなかなか伝わらない。非常に誇張させて伝わったり、ある一面だけが強調されたりする。モデル校の例などを動画などを交えて伝えていくことが必要ではないか。

※3班資料

